

特別寄稿

個人文書の蒐集・その実践

伊藤 隆

日本近現代史研究の重要な基礎の一つである重要人物の個人文書の蒐集と文書館（私の場合は殆ど国会図書館憲政資料室）へ遺族から寄贈して頂くというところに、私は長年携わって来た。これは研究活動ではなく、その下支えであり、日本の文化財を将来に残すという作業である。ここには理論はなく、実際の作業があるのみである。従って、その具体相を述べる以外にない。以下平成二三年以降の私の実践を記して、皆さんの参考に供することにする。

平成二三年に蒐集した一つは「渡辺家（国武・千冬・武）関係文書」である。この年多年お世話になった渡辺武さんが亡くなられた。一月に、渡辺崇氏から連絡があり、代々木上原の「無辺洞」の石碑のあるお宅（マンションになっていた）を憲政の鈴木宏宗氏と訪うた。久保寧子さんも居られて、通されて出た史料の多さに驚いた。国武、千冬、武と三代の日記、手帳、来簡が整理してあった。昔、拝借して書き起こして『社会科学研究』に紹介した国武宛書簡に四〇年ぶりに再会。書簡を纏めた封筒や輪ゴムで止めた中の紙片などに書かれた私の字を見てかつてを思い出した。持ち帰ることが出来ないので、

憲政資料室に着払いで送って貰うことにして辞した。暫くして段ボール五個が届いたと鈴木氏から報告があった。渡辺家の史料はこれまでのものと併せてすべてであろうと思った。

次は加瀬俊一日記である。暫く前に佐賀香織さんを連れて、加瀬英明さんの事務所に行つて、加瀬俊一日記を見せて頂いて、目録を作った事があった。六月三日の『ざっくばらん』の奈須田敬氏のご苦労さん会で加瀬英明氏にお目にかかったので、加瀬英明氏に「加瀬俊一日記」を憲政に入れてほしいと頼んだら了承し、憲政の人を連れて頂きにあがることも了解して下さった。一度伺ったが、日記を自宅に持って帰っていたというので、憲政の人が来るので渡して欲しいと依頼し、後日堀内寛雄氏と鈴木氏が加瀬英明氏から「加瀬俊一日記」を受け取って来た旨の報告があった。全部公開してもよいとのこと、既に公開されている。

次は「細田吉蔵日記」である。細田吉蔵氏のインタビューは平成一七〜一八年に行つて、冊子化した。翌年逝去された。そのご縁から息子の博之氏から平成二二年八月に日記をいずれ憲政資料室に入れる

がその前に一度話したいというので、議員会館に伺い、日記が昭和四三〜五二年、五五年、五七〜六四年、平成二年〜二年、一七年在ある事を確認して、数冊をお借りして拝読する事にした。この日記を通じての自民党研究で科研費の申請を行おうとしたがうまくいかなかった。結局二三年七月に秘書の塚本さんから細田氏の承諾を取って貰って、堀内氏、鈴木氏と一緒に議員会館の細田氏の部屋に行き、「細田吉蔵日記」を受け取り、館まで運んだ。これは既に公開されている。

次は「石坂泰三関係文書」である。事の始まりは、平成二二年九月に岡崎研究所で岡崎氏から、伊藤博文のひ孫の永富邦雄氏を紹介され、永富氏から伊藤博文の勇吉（後の博邦）宛の書簡を読み下して欲しいと頼まれて、引き受けた事に始まる。この時「伊藤家系図」を頂いて、その広がりには驚かされた。数日後日本工業倶楽部に行き、永富邦雄氏頼まれていた伊藤博文書簡（後の博精宛）の読みをつけたものをお渡しし、多少の解説を述べた。史料情報辞典の話をして、誰か紹介して欲しいと頼んだら、差し当たり友人に石坂泰三の息子がいて、日記やその他の史料があると云っていたので、引き合わせようといってくれたので宜しくとお願いして置いた。翌月日本工業倶楽部で永富氏から石坂泰彦氏（泰三氏の四男）を紹介された。泰三日記の事が出て、それを是非見せて欲しい、コピーを取らせて欲しいとお願いして、了解された。二月に入って、石坂泰彦氏に手紙を書いて、「石坂泰三日記」のコピーの事を頼んだ。数日後、やはり日本工業倶楽部で永富邦雄氏から伊藤博雅氏を紹介されて、辞典とその追加情報について話し、伊藤氏から「明治二三年五月一四日所賜詔書、於広島大本営博文誌」

という巻物を見せて頂いた。持っておられるのはこれだけで、他は空襲で焼けたとのことであった。翌年五月に石坂氏から電話、五月後半に再度電話をくださって、松涛の家の蔵にある史料を見せるとのことであった。結局二三年七月に石坂泰彦氏から電話、蔵を開いて整理したので、適当な時に見て欲しいという、日は改めて連絡するとの事であった。八月一日に訪問、亡くなった石坂泰三の長女のものであったという家に行く。松涛のお屋敷といった感じのすばらしいお宅。次女の方と長女の娘夫婦、それに石坂泰彦氏で話し合い、憲政資料室に寄贈して頂くことで諒解を得て、整理をする余裕がないので、全て運び込み整理の結果で相談することにした。運搬はして下さる、また必要なら資金的な援助もするという事であった。その後石坂氏が憲政に入室、堀内・鈴木両氏と一緒に石坂氏と話し合い、協議した結果、翌週お宅に伺うことになった。憲政の堀内氏と鈴木氏と石坂家に行き、早速、憲政に持っていくものを選び出した。東京大学史料室か法学部の法政史料センターに持って行こうと考える大学時代のノートを含めて六箱位になった。残ったものの内、棄てるも良いもの、残すもの、再検討するものに区分する作業をして、憲政に持っていくものは泰彦氏のお宅に預かって貰った。因みに一〇月六日に日本工業倶楽部で講演をする事になったが、永富氏や石坂氏の手配だった。暫くして石坂家から史料が届いた旨の報告が憲政からあった。

次は以前からの続きであるが「児玉秀雄・源太郎関係文書」が追加提供されたことである。既に提供された尚友倶楽部で、私も加わって来簡・電報を纏めた『児玉秀雄関係文書』二巻を刊行し、書類編を編

集し始めようという所であった。平成二三年六月二〇日に尚友倶楽部史料調査室二〇周年記念懇親会が開催された際、お出でになった児玉家の史料の提供者児玉紀さんが、再び史料が出てきたという話をされた。それを拝見に季武嘉也氏・濱田英毅氏・上田和子さんと私で児玉家に伺ったのは、雪の中の翌年二月二十九日であった。見せて頂いた大量の史料の中に山県有朋や伊藤博文などからの源太郎宛書簡が含まれているのを見て、疎開先の空襲で失われたといわれていたかなりの量の源太郎関係文書が遺されていた事に驚かされた。三月七日に上田さんと資料室のサポーターの松平忠昌氏が児玉家からその史料を受け取って来られた。源太郎葬儀関係や弔辞や、児玉家の毛利元就・毛利輝元の花押を含む近代以前の史料は別に整理した。早速、季武氏を中心に全体を点検し整理を進め、目録作成を行った。既に提供されたものの中にも多少源太郎関係のものがあり、それを纏めて「児玉源太郎関係文書」の刊行をめざして現在作業を進めているのである。

平成二四年に蒐集した一つは「椎名素夫関係文書」である。発端は嘗て御厨貴氏らと行った椎名素夫氏のインタビュー記録がどうなっているかを政策研究大学院大学の図書館の担当者梅崎さんにお聞きし、その記録の公開について遺族と交渉する必要があるという事からであった。しかし、遺族情報はなかった。日本教育再生機構の理事会で三浦博史氏から情報があるかも知れないという事で、お願いをしていたが、一方「椎名悦三郎関係文書」を所蔵している憲政資料室に聞いたところ、素夫夫人秀子氏が寄託者になっているが、記録されている住所から移転したらしいという情報を聞き、結局情報を下さったのは、

これまでもこの蒐集作業を助けて下さっていた元朝日の記者山下靖典氏であった。教えて下さった住所で椎名秀子さんにお願いの手紙を差し上げたのに対して、電話をいただき、新しい住所(娘さんの加藤敬子さんが高齢になった彼女をマンションの自分の隣の部屋に移らせたとの事であった)に伺った。色々素夫氏について話をし、実は何も残されていないと伺ったが、その内に、CDやフロッピー等が多少あるということが判り、これを拝見し、国会図書館憲政資料室に入れることに原則的に諒解され、ただ元の秘書高橋佑氏・佐賀保氏の諒解も得たいというお話であった。また寄託であった「椎名悦三郎関係文書」を寄贈にして下さる事に原則的に同意して下さった。ただ高橋氏らの住所が判らないというので、椎名氏の仕事・国際経済政策調査会を引き継いだという岡崎久彦氏にお聞きすることにした。岡崎事務所を訪問し、常務理事の高橋佑氏と理事で法人職員である佐賀保氏(いずれも椎名氏の秘書だった人)へ連絡を取って下さった。早速国際経済政策調査会を訪問し佐賀保氏にお目にかかり、話をしたが、調査会には椎名氏の関係のものはほとんどなく(若干のものを頂いたが)、元の椎名事務所のものは地元の水沢市(現奥州市)に送ったという話であった。五月に入って憲政資料室の堀内寛雄氏、鈴木宏宗氏と秀子夫人の所に伺い、加藤敬子さんも加えて話し合った。また実は少し書類が見つかったというので見せて頂いたら、草稿やメモ等々ダンボール一箱分位があり、それも頂くことにした。更に高橋保氏から伺った地元千葉氏に秀子さんが直ぐに電話して下さって、それを私に渡し、私から色々説明したら、まだ開けてないダンボールがいくつかあると

いうことであつたので、試みに何か書類が入っているものを選んで、いくつか秀子さんの所に送って欲しいと頼んだら、そうするという返事であつた。またその時にかつてのオーラルヒストリーの公開の同意も得る事が出来た。千葉氏から段ボールが送られて来て、堀内・鈴木氏と一緒に秀子夫人と加藤敬子さんを訪問したのは、翌二五年に入ってからであつた。その段ボールには貴重な史料が詰め込んであつたので、直ちに憲政資料室に搬入したのであつた。

もう一つは「佐伯喜一関係文書」である。その発端は更にその前年の平成二三年に遡る。私が中学歴史教科書編纂の座長を務めていた育鵬社の中心人物真部栄一氏と話していたときに産経関係で佐伯浩明氏の名前が出、佐伯喜一氏の長男であるという事であつたので、早速に紹介を頼み、早速に佐伯浩明氏に依頼の手紙を書いた。早速返事があり、喜一氏の住居であつた鎌倉の家に案内するという有難いお申し出をいただいた。浩明氏が車で鎌倉のお宅に連れて行って下さつたのは一月になつてからであつた。鎌倉山の素晴らしい環境の中にあつたそのお宅には段ボール五箱位の史料が残されている事を確認する事が出来、憲政資料室に寄贈して下さることも了解して下さつた。二人の妹さんには了解を求める手紙を出し、いずれも諒解して下さつた。堀内・鈴木氏と鎌倉にそれを引き取りに伺つたのは翌二五年二月であつた。これも既に公開されている。

その平成二五年二月一日に私は四国中央市で開催された建国記念日を祝う会で講演を行つていた。そもそもこれは育鵬社の大越氏からの話であつた。講演が終わつた後、愛媛県会議員の森高康行氏が来

て、色々話したが、話の中に末次一郎の残した史料の話が出たので、是非国会図書館憲政資料室に入れるようにして欲しいとお願ひしたら、早速関係者と話し合うという返事であつた。暫くして森高康行氏から電話、末次一郎の史料の件で話し合い、憲政の要覧と収蔵資料一覧を送付した。それに対して森高氏から末次史料の担当者石川雅子さんの電話を知らせてくれ、早速電話してユーラシア21研究所に石川雅子さんを訪ね、彼女と理事長の吹浦忠正氏と横田光弘氏と会い、膨大な量の末次一郎関係文書を見せて貰つた。七月憲政資料室の二人と一緒に研究所に伺い、来訪していた末次の二人の娘さんとも話して、「末次一郎関係文書」を憲政資料室に運び込んだ。寄贈者は末次未亡人という事になつた。その時に「末次一郎先生を偲び、近況を語り合う会」の案内を受けた。九月七日のその会に出席した。高森氏が挨拶の中で末次一郎関係文書が国会図書館憲政資料室に入った経緯にもふれた。高森氏も吹浦氏も昨日憲政に行つて、書庫を案内されたといい、憲政の一枚紙の説明がみんなに配布されていた。ついで僕が指名されて、憲政資料室のことや、僕の史料収集活動の話を知くした。

その後で参列しておられた福留民夫氏から話しかけられた。彼は沖縄密約問題の若泉敬氏と親しく、多くの来翰を中心に冊子を作つたが誰にも見せていないと言つたので、僕に見せて判断させたらどうかと言つたら、送ると言い、やがて『祖国日本と地球の将来を祈念しつつ沖縄の大義に殉じた若泉敬』という冊子を送つて来た。見たら若泉敬からの書簡数十通が一覧になり、その内から貴重なものが引用されていた。それで「若泉敬関係福留民夫旧蔵史料」としてそれを憲政資料

室に寄贈して下さいるようお願いして、平成二五年に入って実現した。四月に入って福留氏に憲政に来て貰って、私からもお礼を述べ、また末次等と若き日に結成した土曜会や有志の会の機関誌なども出して欲しいとお願いし、また土曜会関係の人物にも紹介してほしいと依頼し、いずれも実現した。

福留氏が紹介して下さい一人が佐々淳行氏であった。平成二六年の七月に入ってから佐々氏に手紙を書き、奥様からメールをいただき、八月に老人ホームグランダ学芸大学に行き、佐々淳行氏にお目にかかった。手術前の体調整備のためという事であったが、お元気で、憲政資料室の事を話したら、自分が事あるごとに詳しくメモした大量の手帳を中心に渡してもいいということであった。近く文藝春秋から出版する『私を通りすぎた政治家たち』を始め、これまで書いたものの典拠になるものだという。お話しを伺っていて、実に面白かった。研究費があればインタビューしたいものと残念に思った。九月に入って、駒澤大学で憲政の堀内氏と葦名ふみさんと待ち合わせて、佐々邸に行った。史料を見せて頂いたが、素晴らしいものであった。見せて頂いている内に佐々弘雄、佐々友房関係のものまである事が判り、驚いた。「佐々友房関係文書」は憲政にあり、「佐々弘雄関係文書」は嘗て佐々克明氏から見せて頂き、コピーしたもののファイルで憲政に預けてあるという因縁がある。また若泉敬からの手紙もあった。この日はチェックだけにして、一〇月に入って堀内氏、葦名さん、それにもう一人の若い職員と図書館の車に乗って雨の中、佐々邸訪問、第一回の引き取りを行った。なお更にもう一度伺う予定である。

先走りすぎたので、平成二五年に戻る。その前年二四年に、中央公論社で私の史料集作りに協力して下さいた平林敏男氏（中央公論事業出版の社長を退職したが、なお関係をもっていた）から彼が編集・製作を手伝った田川五郎著『横須賀軍人市長奥宮衛とその時代』を送ってくれた。著者は田川誠一の末弟という。この前後に政策研究大学院大学のオーラルヒストリープロジェクトで行った『田川誠一オーラル・ヒストリー』を大学のホームページで公開しようという事で、その許諾を得てほしいといわれていた事もあり、田川家への接触の事もあり、平林氏に田川五郎氏への紹介を依頼した。その後平林氏から、田川氏は前に『最後の民権政治家立川雲平』の仕事で意気投合したという手紙を貰った。立川雲平の史料も出来ればほしいと思い、是非田川五郎氏にお目にかかりたいと希望した。その後田川五郎氏からレターバックで、『最後の民権政治家立川雲平』と長文の手紙を頂き、オーラル公開の事は田川誠一の長女、岡本伸子さんに手紙を出してはどうかと宛先を知らせて下さった。また立川雲平は遠い縁戚関係があるという。とにかく逢おうということであった。早速岡本伸子さんに手紙を書いて、オーラルの公開問題の了解を得て、政策研究大学院図書館に連絡した。田川五郎氏とお目にかかったのは、二五年二月であった。この時に立川雲平の史料のことを打診して頂く事にした。そして三月に入って田川氏と駒場の立川昌介氏のお宅に伺った。早速「立川雲平関係文書」を見せて頂いた。巻物三本他の書簡、漢詩や紀行や短い回想、それに自叙伝の原稿他があった。話し合った結果、憲政資料室に寄贈して下さいる事になった。いずれ憲政資料室の人と頂きにあげ

るということに約束をした。しかしその後、立川昌介氏から、「立川雲平関係文書」を憲政資料室に送って寄贈の手続を終わったとして、関係書類と目録のコピーを送ってくれた。これも既に公開されている。

二五年一〇月始めに旧知の長尾龍一氏から、太田耐造の息子知行氏が父親の残した血盟団関係の史料をどうしようかと言っているがという手紙を受け取った。憲政に連絡して引き受けるということを長尾氏に伝えたら、太田氏に連絡して呉れた。また太田知行氏からもメールがあり、父親の残した史料について概要と不安を書いて来たので、それに対して私の考えを述べ、憲政資料室に案内する旨の返信を送った。この月一五日国会図書館の入口で太田知行氏と落ち合い、憲政資料室に行き、堀内氏と鈴木氏と話し合う。太田氏は「太田耐造関係文書」のやや詳しい概要を作成して下さる。いろいろ話し合い、説得して、最終的にご寄贈下さることになった。翌月太田知行氏から「太田耐造関係文書」を憲政の鈴木氏が取りに来てくれたとの報告のメールが入った。

次は「森元治郎関係文書」である。このきっかけを作って下さったのはエヴァ・ルトコフスカ・ワルシヤワ大学教授である。彼女は平成二四〜五年に研究のために来日していた。森元治郎は元駐ポーランド大使であった。私も何かの事で一度だけお目にかかってお話しした事があったが、エヴァさんはインタビュールしたのであったろうか、その娘である森真理子さんとも知り合いであるという事であった。それで彼女の帰国直前に紹介を頼んだのである。八月に森真理子さんに会いたいというメールを送った。応答があり、お伺いする事になった。お

宅に伺ったところ、大分処理してしまつて、僅かしか残っていないということであった。ただ昭和二〇年前後の手帳（かなり詳しい記載がある）があったのが貴重であった。最終的に憲政資料室に入れて貰うことにして、纏めて置いて貰うことにした。九月に憲政資料室に送って下さるよう依頼し、実行され、その後再び見付かった史料を憲政資料室に送って下さった。

次は「阿南惟幾日記」（昭和一三〜二〇年）である。これは嘗て半藤一利氏が担当して文藝春秋で出版する計画で、入力したが、その後企画が中止になってしまったものである。それを私が阿南惟正氏に話して、将来刊行の許可を得ていたが、なかなか最終的な許可を得られず延び延びになっていた。二五年一月にお目にかかった際も、もう少し考えさせて欲しい、日記を含む史料の憲政への寄贈には同意されたが、これも少し時間を置いてということであった。三月に日記の刊行はお断り、日記や文書は憲政資料室に寄贈するという手紙を頂いた。一〇月に入って、日記を受け取った旨の連絡が憲政からあった。これも既に公開されている。

最後は「田川誠一関係文書」である。嘗て私を中心になって田川氏の長期インタビュールを行い、料研費の報告書『田川誠一オーラル・ヒストリー』として纏めた（平成一三年）。前述のようにオーラル・ヒストリーは政策研究大学院のホームページからアクセスすることが出来る。またこのインタビュールの進行中の平成一〇年から氏の承認を得て、コピーを作つて貰い自治大臣時代の日記の刊行計画を伊藤光一氏と進めてきた。また関係文書の一部の整理をも始めていたが、秘書が

自分がまとめるということで、引き上げられた。そうしている内に平成二一年に田川氏が逝去されたので、中断になってしまっていた。先に触れたように長女の岡本伸子さんと連絡が取れた事から（平成二五年に岡本徳弥氏からメールアドレスを伺って日記等残されたものの憲政への寄贈依頼を行っていた）、九月に横須賀の田川氏の選挙事務所だったところに伺い、伸子さん、仲田清・陽子（伸子さんの妹）夫妻と三人で話をし、長期にわたって使っていた毎年の手帖、雑件、長期に亘る政治家時代の日記（尤も私と伊藤光一氏がコピーを頂いて、データをチェックしていた自治大臣時代の日記が欠落していることが判った）、また市役所に預けてあった若き新聞記者時代の日記などが残されている事がわかった。その時基本的に憲政に渡す事に同意されたので（直に手帳〈昭和四二年〜平成一六年〉は送って下さった）、憲政資料室の見学お誘いし、一〇月末に実現した。その時岡本伸子さんと仲田清氏が上記のものを持ってこられた。じっくりと公開の仕方について相談して合意が成立した。

現在取り組んでいるものに「伊藤文吉」の関係史料がある、尚友倶楽部の上田さんの紹介で、文吉の娘伊藤美穂子さんに手紙を出し、お願いにあがった。文吉の一番活躍していた時期のものはないが、概ね同意して下さったが、現在も話し合いの最中である。

序でに田口卯吉の息子文太の関係史料等についても触れておこう。嘗て一緒に吉川弘文館の人物叢書田口親（卯吉の孫）『田口卯吉』を分担執筆した梅澤ふみ子さんから連絡があり、明治一九年に建築したという旧田口卯吉邸（国登録有形文化財）を一〇月に訪問した。現在

は親氏の甥の嘉治憲夫氏夫妻がお住まいである。ここに、田口文太（陸軍薬剤総監）の関係文書が遺されていた。色々お話しして、その内一高東大の水泳部・短艇部関係のものは東大大学文書館に、陸軍薬剤関係は防衛省防衛研究所などに寄贈する事にして、私と梅澤さんで交渉し進行中である。また嘉治憲夫氏の父君は嘉治真三氏で、私の東大社研助手時代の教授であり、それ以前は前田多門文相から三代の文相の秘書官を勤めた人物、またGHQの日本語ローマ字化政策に抵抗して、それを止めさせるにあたって役割を演じたという人である。今のところごく僅かの史料であるが、是非見つけて下さるようお願いしている状況である。

（いとう たかし・東京大学名誉教授）